

研修結果報告書

<概要>

12月12日、私は、女子高生サポートセンターColaboこと一般社団法人Colabo（以下Colaboと表記する）が主催する「夜の街歩きスタディーツアー」に参加した。Colaboは社会的に孤立し困窮状態にある少女を支える活動を行っている団体であり、その活動内容は大きく分けて、①深夜巡回・出張相談、②食事提供・関係性の支援、③ユーススタッフ（10代の少女が中心）による活動、④調査・発信事業/啓発活動の4つである。私が参加した「夜の街歩きスタディーツアー」は④の調査・発信事業/啓発活動の一環であり、子どもたちが違法労働や犯罪、性搾取の現場に行きつかないための予防教育・対策を目的としている。

<参加動機>

ではなぜ私はこのツアーに参加したのかについて話させていただく。私は大学生になってから自分の人生、将来のライフスタイルについて深く考えるようになった。大学を卒業し、就職、結婚、定年退職、老後。多くの学生はこのような人生のロールモデルを思い描いているのではないだろうか。その中でも就職とは雇われるということすなわち、雇い主の夢のために自分の人生を捧げるということであり、誰かの人生プロジェクトに加担するということである。しかし世の中には、好きな人と好きな時間に好きな場所で働く生き方もあると知った。そこで、このまま誰かが敷いたレールを通り生きるのは本当に正しいのか？今、私の人生という最大のプロジェクトの依頼主は誰なのか？という疑問が湧いてきた。この疑問を解消し自らが選択したレールに乗り、将来「志事」をしたい。そのためには様々な人生・ライフスタイルに触れる必要があると考え、今回参加を決めたのである。

<当日の流れ>

19時00分：新宿駅東口駅前広場に集合・出発

↓

19時00分～19時45分：歌舞伎町案内

↓

20時15分～21時00分：秋葉原案内

↓

21時00分～22時30分：研修（質疑応答）

↓

22時30分～23時00分：終電前の街歩き

↓

23時00分：秋葉原解散

<報告主文>

歌舞伎町の街歩きでは、女子高生を危険な仕事に巻き込む温床となるものが街の至るところにあると知った。その後移動した先の秋葉原では、女子高生が堂々と商品化されている状況を見ることになった。これはもはや人身売買が行われていると言っても言い過ぎではないだろう。秋葉原と言えばメイドカフェやコスプレ喫茶などがメインカルチャーであると思っていたが、今は「JK カフェ」というものが存在するようだ。名前の通り、女子高生をウリにしたカフェである。一見、怪しくもなんともないようにも思えるが、そこには女子高生を危険に晒している裏事情がある。以前「JK リフレ」という、女子高生がマッサージをしてくれることをウリにしたお店が流行ったが何店舗も大量に摘発されたそうである。その後、「JK リフレ」として営業できなくなったお店は、「JK お散歩」などの業態を始めたというのだ。「JK お散歩」はその名の通り、女子高生とお散歩ができるというもの。30 分の短時間コースから長時間のコースもあるようで、喫茶店などに入ってお話するくらいで済むこともあれば、色んな場所へ「お散歩」へ行き、「お散歩」中はどんな場所へ入ろうとも客の自由だというシステム。店舗を持たずにできるので店側にとってはリスクが少なく、お散歩している間は客と 2 人きりになるので、女子高生にとってはリスクが多く危険な仕事となる。そして話を聞きながら歩いていると、とある通りに案内された。メイドカフェやコスプレ喫茶などが並んでいる。「つくも通り」というらしいその通りでは、コスプレ喫茶などの客引きと同じように「JK カフェ」や「JK お散歩」で働く女子高生も並んで客引きを行っていた。女子高生の制服を着ていたので一目瞭然だった。今まで制服を着た客引きは「コスプレかなにか？」と思っていたが、まさか本当に女子高生とは思ってもいなかった。これには本当に驚いた。道を振り返って見てみると、道の両側にメイドなどと混ざって女子高生が並んで客引きをしている姿はまさに少女たちを「売り物」にしているような光景だった。「秋葉原では女子高生が堂々と商品化されている」ということがどういうことか、やっと身に染みて感じた瞬間だった。秋葉原の街歩きの後、近くの喫茶店に移動し、じっくりとお話を聞く。どんな女子高生が危険に巻き込まれていくかなどを詳しく聞くことができた。話の中で印象的だったことをいくつか紹介すると、まず、巻き込まれやすい子のイメージは、「家庭環境が良くなく、家庭にも学校にも居場所がない」というものだったが、今や「家庭環境も良くて友達もいて将来の夢もある」といういわゆる「普通的女子高生」が 3 割くらいはいるとのこと。それは、「JK カフェ」などの業態が表向きにはダークなイメージが少なく、「割の良いバイト」として友達から口コミで広がることも背景にあるそう。そして、その仕事を続けていて、中にはまったく性被害に合わずに済んでいる子もいれば、始めてすぐに被害に合って苦しむ子もいるという。自らが被害に遭っていなければ「いいバイトだよ」と言って友達を誘い、「〇〇ちゃんもやっているなら」と広がっていく。逆に、被害に遭った少女に聞くと「自分と同じ目に遭わせたくないから友達には紹介なんかしない」というのがほとんどらしい。危険に遭うまで実態を知らずに働いている少女が多い現状があるのであれば、こうして知り得た情報を、出会う女子高生たちに伝えていくことも私たちができることの一つなのだろうと思った。被害に合った女子高生は「家族に知られたくない」という子も多い。家族に言えず、帰る場所をなくしていろいろなところを渡り歩くしかないのに、警察が補導して家族に伝えてしまい、家族関係や状況が悪化するケースもあるという。なるほどと納得しつつも、話を聞けば聞くほど何をすればいいか、何ができるのかが分かりづらくなった。また、女子高生を商品としてやり取りしている大人たちが、なかなか捕まらないということも問題だという。女子高生は深夜に徘徊しているだけで警察に補導されるが、その女子高生たちに声をかける大人たちは深夜に徘徊していても捕まらない。客が捕まるのは買春

の決定的な証拠があったときくらい。店は摘発を逃れようと次々と業態を変え営業し続けている。悪いことをする大人たちは安全なところにおいて、女子高生たちのリスクだけが高くなるような仕組みになっている。今回この「夜の街歩きスタディーツアー」に参加してみて、女子高生に対する意識が大きく変わったように感じる。今まで夜に1人で出歩いている少女を見ても気にも留めなかった。しかし、今回お話を聞いて一人の人として、彼女たちに気づいて接するだけでできることがあるかもしれないと思った。何が根本的な解決に繋がるのだろうか。それはわからないが、問題を抱えている少女に気づける人を増やすためにも、このツアーに参加したり、情報を広めたりということから始めることは重要な一歩だと思う。実体験として、ツアーの数時間で今まで気づけなかったことに気づけるようになったと実感できる。この問題に興味がある人はもちろん自分の世界を広げたい人にもぜひすすめてほしいツアーであった。